

新しい街新しいみこし

子どもたち3基手作り

復興
2015



●新しい街の公園で手づくりのみこしを担ぐ練習をした＝岩沼市玉浦西地区①みこし作りのワークショップ＝岩沼市の玉浦公民館

津波で被災した6集落が一つになって集団移転をした街・岩沼市玉浦西に住む子どもたちが26日、3基のみこしを作った。集落にあったみこしは流され、祭りは途絶えたままだ。7月19日にある「まちびらき」で神様やご先祖様を乗せて練り歩き、新しいふるさとを見てもらう。



岩沼・玉浦西、7月「まちびらき」

授(66)や学生たちが、玉浦公民館でワークショップを開き、近隣の子を含め小中高生十数人が集まった。多くは近所同士になったばかりだ。

もとの集落で切り出してきた竹、海の近くで拾った流木、岩沼市内の工場でもらった建材やパイプ……。現代アート作家の門脇篤さん(46)らが手伝い、材料をそろえた。

小学生チームは「天使」をイメージしてみこしを作った。白い布を巻き付け、妖怪のヘッドマークに、段ボールの羽。二野倉地区出身の小学6年、小林礼奈さん(11)は「心優しい神様が乗ってくれるといいな」。

中川ちひろさん(15)たちのテーマは、「ラブ&ピース」。球形のブイを青と緑に塗った地球を、希望を意味する黄色の鎖で取り囲んだ。「前へ前へと進む気持ちを表したかった」

高校生男子チームは、海と空の「青」をイメージした。曲がった流木を竜神に見立てて四方に鎮座させ、力強いみこしに。「復興が進むのを、神様に見せてあげる準備ができた」と、小林吏公くん(15)。みこしのポディーに隙間を開け、外が見えるようにしたのがミソだ。

日が落ちかけた夕方、玉浦西の公園でみこしを担ぐ練習をした。相野釜地区の町内会長だった中川勝義さん(76)が、大事にしまっていた空色のはっぴを持ち出

し、着せてくれた。津波のとき地区の公会堂2階にあり、奇跡的に流されなかったものだ。

新しい家から顔を出したお年寄りが、「久しぶりだから忘れたな」と言いながら、かけ声を教えた。

「ワッショイ、ワッショイ、ワッショイ」

公園を3周した後、藤曾根出身の高校1年、佐藤慶次朗くん(15)が締めくくった。「みこしを担げば、一つになって盛り上がる気持ちになる。6地区は今までの歴史を流されたが、玉浦西という文化が新しく生まれるんだと思う」

内陸部の20軒を造成した集団移転の街は、被災地の先頭を切って今春に完成。約1千人が暮らしている。

(石橋英昭)